ASIA Indicators

定例経済指標レポート

アジアの輸出に一段と加速感（*Asia Weekly (3/6～3/10)*）

～世界経済の循環的回復を追い風に輸出の伸びは一段と加速～　　**発表日：2017年3月10日（金）**

第一生命経済研究所　経済調査部
主席エコノミスト 西濵　徹（03-5221-4522）

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	ｺﾝｾﾝｻｽ	前回
3/6（月）	（豪州）1月小売売上高（前月比/季調済）	＋0.4%	＋0.4%	▲0.1%
3/7（火）	**（台湾）2月消費者物価（前年比）**	**▲0.04%**	**＋0.70%**	**＋2.25%**
	2月輸出（前年比）	**＋27.7%**	**＋16.4%**	**＋7.0%**
	2月輸入（前年比）	**＋42.1%**	**＋24.9%**	**＋8.4%**
	（フィリピン）2月消費者物価（前年比）	**＋3.3%**	**＋3.2%**	**＋2.7%**
	（豪州）金融政策委員会（政策金利）	1.50%	1.50%	1.50%
3/8（水）	（中国）2月輸出（前年比）	▲1.3%	＋14.0%	＋7.9%
	2月輸入（前年比）	＋38.1%	＋20.0%	＋16.7%
3/9（木）	（中国）2月消費者物価（前年比）	＋0.8%	＋1.7%	＋2.5%
	2月生産者物価（前年比）	＋7.8%	＋7.7%	＋6.9%
3/10（金）	**（フィリピン）1月輸出（前年比）**	**＋22.5%**	**＋10.5%**	**＋4.5%**
	1月輸入（前年比）	**＋9.1%**	**＋10.0%**	**＋19.1%**
	（シンガポール）1月小売売上高（前年比）	**＋2.0%**	**＋0.8%**	**＋0.7%**

（注）ｺﾝｾﾝｻｽは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。**灰色で囲んでいる指標**は本レポートで解説を行っています。

［フィリピン］　～インフレ圧力が高まる動きのなか、外需は世界的な景気回復も追い風に加速感が増す～

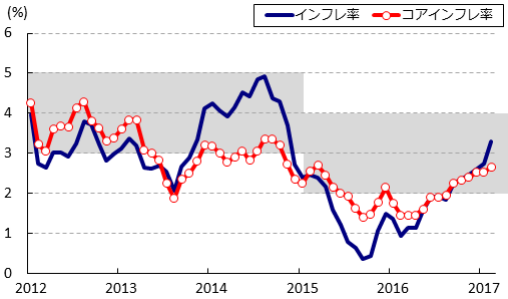
７日に発表された２月の消費者物価は前年同月比＋3.3％となり、前月（同＋2.7％）から加速して27ヶ月ぶりに３％を上回る伸びとなった。前月比は＋0.27％と前月（同＋0.34％）から上昇ペースはやや鈍化しているものの、物価上昇基調は続いている。生鮮品を中心に物価上昇圧力が後退しており食料品価格の上昇は一服しているものの、原油相場の底入れの動きを反映する形でエネルギー価格は上昇基調を強めており、これには金融市場で進行する通貨ペソ安による輸入インフレ圧力も影響しているとみられ、生活必需品を中心に物価上昇圧力が高まっている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比＋2.66％と前月（同＋2.52％）から加速しており、前月比も＋0.28％と前月（同＋0.21％）から上昇ペースが加速するなど物価上昇圧力が高まっている。堅調な景気を反映してサービス物価の上昇圧力がくすぶっているほか、通貨ペソ安による輸入インフレ圧力などを受けて消費財でも物価上昇圧力が高まるなど、全般的にインフレ圧力が高まりつつある様子がうかがえる。

10日に発表された１月の輸出額は前年同月比＋22.5％となり、前月（同＋4.5％）から伸びが加速した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も６ヶ月連続で拡大している上、そのペースは大幅に加速しており、世界経済が循環的な回復局面を迎えるなかで輸出が押し上げられている。主力の電子部品関連の輸出が堅調に推移しているほか、金属をはじめとする鉱物資源や木製品などの軽工業品などで幅広く拡大の動きがみられる。国・地域別では、日本向けのほか、中国（含、香港）向けなどでも一服感が出ているものの、米国やＥＵなどの先進国向けのほか、ＡＳＥＡＮをはじめとするアジア新興国向けの堅調が全体の押し上げに繋がっている。一方の輸入額は前年同月比＋9.1％となり、前月（同＋19.1％）から伸びが鈍化した。前月比も２ヶ月

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

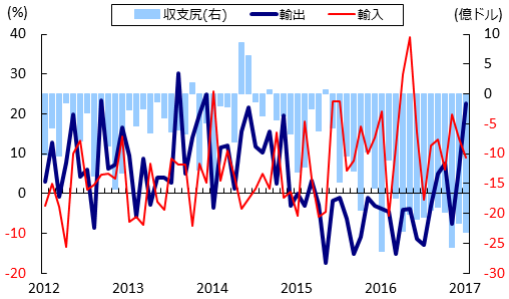
連続で減少しており、拡大が続いてきた流れに一服感が出ている。原油相場の底入れなどを反映して原油をはじめとする鉱物性燃料の輸入は堅調に推移している一方、機械製品や消費財関連の輸入の鈍化が下押し圧力となっている。結果、貿易収支は▲23.14億ドルと前月（▲21.58億ドル）から赤字幅が拡大した。

図1 PH インフレ率の推移



（出所）CEICより第一生命経済研究所作成

図2 PH 貿易動向の推移



（出所）CEICより第一生命経済研究所作成

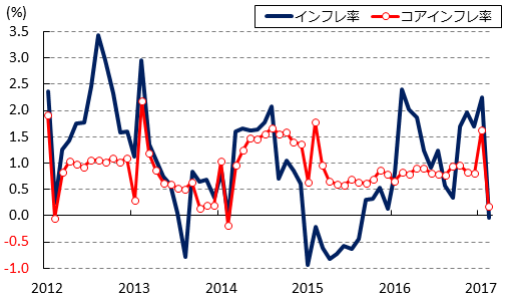
［台湾］ ～原油相場底入れに伴うインフレ加速は一巡、世界経済の回復に伴い輸出入ともに堅調に推移～

7日に発表された2月の消費者物価は前年同月比▲0.04%となり、前月（同＋2.25%）から18ヶ月ぶりにマイナスに転じている。前月比も▲0.34%と4ヶ月連続で下落している上、前月（同▲0.02%）からそのペースは加速しており、物価上昇圧力が一段と後退している。生鮮品を中心に物価下落基調が続いている一方、食料品全体では加工品を中心に上昇に転じるなど物価下落に一服感が出ているなか、昨年末にかけて原油相場の底入れなどを背景に上昇基調を強めてきたエネルギー価格の上昇は一服しており、生活必需品を取り巻く物価動向はまちまちの状況にある。なお、生鮮食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比＋0.17%と前月（同＋1.64%）から減速しており、前月比も▲0.43%と前月（同＋0.66%）から2ヶ月ぶりに下落に転じるなど物価上昇圧力は後退している。消費財全般で物価下落が続いていることに加え、サービス物価についても上昇が一服しており、足下では外需主導で景気の底入れが進む兆しが出ているものの、インフレ圧力が高まりにくい状況が続いていると判断出来る。川上の物価に当たる卸売物価も2月は前年同月比＋2.19%と前月（同＋2.71%）から減速し、前月比も▲0.82%と前月（同＋0.69%）から6ヶ月ぶりに下落に転じており、原油相場の上昇一服が影響している。先行きも国際商品市況の動向が物価を左右する展開が続くと見込まれる。

また、同日に発表された2月の輸出額は前年同月比＋27.7%となり、前月（同＋7.0%）から一段と伸びが加速して約6年ぶりとなる高い伸びとなった。前月比は＋2.6%と前月（同▲0.5%）から2ヶ月ぶりに拡大に転じており、世界経済の循環的な回復などを追い風に堅調な拡大が続いている。財別では、主力の輸出財である電気機械や電子部品関連で堅調な推移が続いているほか、化学製品をはじめとする素材・部材関連の輸出拡大も全体の押し上げに繋がっている。国・地域別では、米国や日本、ＥＵなど先進国向けに一服感が出ているものの、最大の輸出先である中国本土向けが拡大基調を強めているほか、ＡＳＥＡＮをはじめとするアジア新興国向けなどの堅調な推移が全体を押し上げている。一方の輸入額は前年同月比＋42.1%となり、前月（同＋8.4%）から伸びが加速して約6年半ぶりの高い伸びとなった。前月比は▲0.8%と前月（同＋1.0%）から3ヶ月ぶりに減少に転じるなど一服しているものの、輸出の堅調さを背景に基調としては底堅い展開が続いている。機械製品や電気機械関連の輸入に一服感が出ているものの、輸出が拡大基調を強めていることを反映して素材や部材関連の輸入が底堅く推移しているほか、国際商品市況の底入れも輸入額の押し上げに繋がっている。結果、貿易収支は＋33.60億ドルと前月（＋34.95億ドル）から黒字幅が縮小している。

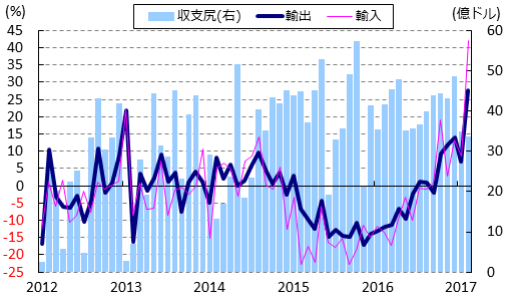
本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

図 3　TW　インフレ率の推移



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 4　TW　貿易動向の推移

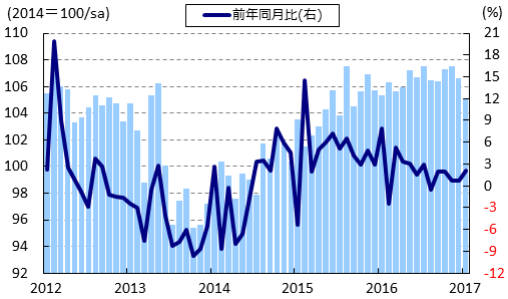


（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

［シンガポール］　～不要不急の消費に加えて生活必需品の需要も低下、個人消費を取り巻く環境は厳しい～

10 日に発表された１月の小売売上高は前年同月比＋2.0%となり、前月（同＋0.7%）から伸びが加速した。しかしながら、前月比は▲1.4%と２ヶ月連続で減少している上、前月（同▲0.8%）から減速のペースが拡大するなど下押し圧力が掛かっている。月ごとの変動幅が大きい上に小売全体の動向を左右する自動車販売が前月比▲2.0%と前月（同▲7.8%）から２ヶ月連続で減少していることも影響しているものの、自動車を除いたベースでも同▲1.3%と前月（同＋1.0%）から２ヶ月ぶりに減少に転じるなど、力強さを欠いている。宝飾品関連で底堅い動きがみられるものの、娯楽関連など不要不急の消費が抑えられていることに加え、食料品など生活必需品関連の消費にも大きく下押し圧力が掛かるなど、消費を取り巻く環境は厳しさを増している。物価の影響を除いた実質ベースでも前月比は減少基調が続くなど、厳しい状況を脱していないと捉えられる。

図 5　SG　小売売上高の推移



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

以　上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。